放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和　7年　　3月　　5日

公表：令和　7年　3月 31日　　事業所名　　Rise

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	活動内容に応じて部屋を使い分けるようにして、どのような活動でも子どもたちが快適に過ごせるように努めている。	
	2	職員の配置数は適切である	4	1	活動内容を踏まえ、より安全性を高める必要があると感じる日には、普段より多くの職員に出勤していただく等の工夫をしている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1		入口に僅かながら段差がある。現在、バリアフリー化への配慮の必要性が高い児童の在籍が無く、今後、身体障害を抱える子等を受け入れる時は、きちんと対策を講じたいと考える。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	0		定期的に業務改善に向けた職員会議を開催し、円滑に業務が進められる環境整備を行いたいと考える。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	毎年評価表を集計した後に職員で話し合う場を設けている。評価表の内容を踏まえて改善や変更ができる内容は迅速に着手している。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	毎年、実施できている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1		年に数回程度の実施に留まっている。外部研修の機会をさらに増やすため、情報収集に力を入れていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	児童一人一人に担当職員を決め、児発管とともにニーズや課題の分析にあたるよう工夫している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	毎月の活動内容は、職員で会議を開き検討し、プログラムに対しても担当者を決めることで事前準備を丁寧且つ計画的に行えるよう工夫している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	どの子にも様々な経験を積んでいただきたいと考え、プログラムは日替わりで決定するようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	朝の申送り時等に、その日に利用をする子の留意点等を共有し、目的意識を高めて支援にあたるよう心掛けている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	子どもの特性や発達の段階に応じて、個別活動と集団活動のバランスを決定するようにし、支援計画にも記載をしている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	毎日欠かさずに打ち合わせを実施している。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	退勤前に終礼のような形で、当日の振り返りをする時間を確保している。その際の情報は記録に残している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	2		日によって記録の内容が少なくなってしまう日がある。今後は記録を記入し、目を通す時間を明確に確保していく方針である。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	5	0		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0		後進育成の観点から、可能な限り複数人で参加をさせていただき、会議の参加にふさわしい人材が増えていくことを目指す。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	5	0		行事予定や下校時間の把握の際は、保護者の方へ頼り切ってしまうことが多く、学校の方との協力体制も大切にしていきたいと考える。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2		現在、医療的ケアを必要とする児童の在籍が無い。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	2		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2		昨年度、事業所としては初めて卒業を送り出す方がいたが、障害福祉サービスへの移行に際し、十分な情報共有ができていなかったと感じる。引継ぎに活用できるような本人情報シートの作成等の工夫を取り入れたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3		機会の確保が昨年度と比較し減少したように感じる。積極的に活動へ取り入れていきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2	3		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	連絡帳を採用し、文面で事業所内での様子を伝えることに加えて、送迎時に直接保護者の方へ伝えることを続けている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	2	3	事業所内で上手くいった関わり方等は適宜ご報告し、ご家庭に還元できるよう努めている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	必要に応じて電話や面談の機会を設け、保護者の方の悩みに寄り添うように努めている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	保護者会の開催が安定して開催できるように体制を築くことができた。その際に保護者同士での情報交換の時間を設けるようにしている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0		保護者の方の評価では、まだまだ改善に向けて取り組むべきであると感じた。対応力強化のため、過去の苦情内容を振り返り、より良い対応はなかったか検討する機会等を設けていきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	LINE配信・HPでの公開にて活動の様子や行事予定を発信している。	情報発信の頻度を高め、より多くの方に事業所のことを身近に感じていただけるようにしたい。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	肖像権に関しての同意書を作成する等、適切な対応ができていると感じる。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5		夏祭り等の行事に地域の方をお招きできるように検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2		策定はされているが周知が甘かった。まずは入職者への新人研修にて説明・周知する時間を取り入れる等の工夫をしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	月に1回の避難訓練を実施している。内容も震災・火災・水害等多くの場面を想定している。	消防署の方等、専門性の高い方に助言を求める等で、訓練の質の向上を図りたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	虐待防止に向けた研修を年1回以上の頻度で実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	年に1回以上、身体拘束禁止等への研修を開催している。保護者の方へは、契約時に説明し、支援計画書にも記載を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	調理をする活動の前には、必ず使用する食材を保護者の方へ連絡している。	保護者の方からの情報に留まっている。医師の診断書を踏まえた対応ができるように保護者の方と共同して体制の見直しをしたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0		ヒヤリハット事例の共有が増えていくと、大きな事故を防ぐことに繋がるとも言えるため、今後も作成頻度を向上させていきたい。